



はじめまして、4月から図書館で働かせていただくことになりました和田と申します。一人でも多くの方々に素敵な本と出会えるよう努めたいと感じております。みなさんよろしくお願ひします。

私が取り組むテーマは“動物が登場する本”です。動物について取り上げた本や動物が登場する小説を紹介していきたいと思っています。

このテーマにした理由は、動物だと親しみを感じることができて、読書が苦手な人も読みやすくなると思ったからです。もちろん、読書が好きな人にとっても読んでいただき、さらに知識を深めてもらいたいと思っています。

さて、今回紹介する本は、『わけあって絶滅しました。 世界一おもしろい絶滅したいきもの図鑑』 今泉忠明監修 丸山貴史著 ダイアモンド社 2018 です。以前、話題になった『ぞんねんないきもの事典』シリーズを監修された今泉忠明さんが同じく、こちらの本も監修されています。

絶滅したいきものの絵もあって分かりやすく、油断・やりすぎ・不器用・不運の絶滅した4つのカテゴリーごとに紹介されています。絶滅したいきものの目線から、絶滅してしまった理由を説明してくれています。個々に話し方が違うので、それぞれの印象が残りやすくなっています。

また、絶滅年代・大きさ・生息地・食べ物・分類（ほ乳類など）で説明しています。この本の中で、一番古い時代のものは、先カンブリア時代のディッキンソニアから21世紀のヨウスコウカワイルカまで取り上げられています。

オガサワラマシコ（鳥類）、ニホンオオカミ、マチカネワニなど日本で生息していて、絶滅してしまったものも載っています。

シーラカンスのように絶滅しそうではないというカテゴリーもあり、見ごたえのある内容となっています。

私は、見た目がスズメのようなスティーブイワサザイがかわいくて、実物をみてみたかったなあと思っています。

みなさんも、気になるいきものを見つけてみてください☆

2019年4月

